



薬剤部季刊誌

34号

2014年12月発行

# くすい箱

発行

桐生厚生総合病院 薬剤部

発行責任者 小林 真弓

編集担当者 山崎 成基

矢古宇 由佳

小島 強

## 第34回目のテーマは“ロタウイルスによる感染性胃腸炎”です。

感染性胃腸炎は主にウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。毎年ノロウイルスによる集団感染が話題となり、特に冬場に流行することが多いですが、21号でノロウイルスについては紹介しましたので、今回は同様に胃腸炎の原因となるロタウイルスについて紹介したいと思います。

### ロタウイルスとは

ロタウイルスは直径100nm（ノロウイルスのほぼ倍）の大きさで、感染力が強く、特に乳幼児期（0～6歳くらい）にかかりやすいです。ふつう5歳くらいまでにほとんどの子どもがロタウイルスに感染するといわれています。そのため大人は感染を何度も経験しているので、症状が出ないことが多いです。



### 主な症状

主な症状は、水のような下痢・吐き気・嘔吐・発熱・腹痛で、感染性胃腸炎全般の症状といえます。乳幼児が初めて感染した時は激しい症状が出る人が多いので、脱水症状などに注意が必要となります。

### 流行のピーク

例年、ロタウイルスによる胃腸炎は乳幼児を中心に3月から5月にかけて流行が起こります。ちょうどノロウイルスの流行（11月から3月）が落ち着き始めた頃に入れ替わるように流行するので、引き続き予防対策が必要です。



### 感染経路

ウイルスが口から入ることにより感染します。ロタウイルスは患者の便1gの中に1000億から1兆個（ノロウイルスの100万倍）含まれているといわれ、それを処理した手には、十分に手洗いしても数億個のウイルスが残っていることがあり、そこから感染が広がっていきます。

## 治療法

現在ロタウイルスに有効な抗ウイルス剤はありません。脱水症状や体力を消耗したりしないように水分と栄養補給をして対処することが治療の中心になります。下痢止めの薬は病気の回復を遅らせることもあるので使用しないほうが望ましいでしょう。

## ワクチン

ロタウイルスのワクチンは2種類認可されていて、初回接種は生後14週6日まで(15週未満)に行うことが推奨されています。

ロタウイルスは初回感染時の症状がひどくなりやすく、2回目以降の感染時は症状が穏やかです。このワクチンを接種することで初回感染時の重症化を防ぐことができます。

服薬するタイプのワクチンで、2回もしくは3回の任意接種となっています。

当院ではロタリックス®が採用されていて、生後6週から24週までの間に、1回1.5mlを2回接種します。2回の接種は最低27日(約4週間)あけることになっています。

## 感染を広げないために

まず大切なのは手洗いです。

患者の多くが乳幼児ですので、オムツの適切な処理などが重要となります。

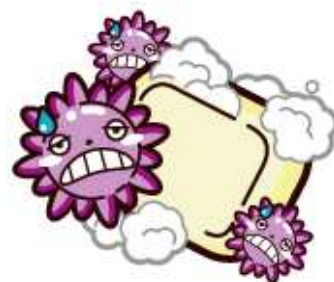
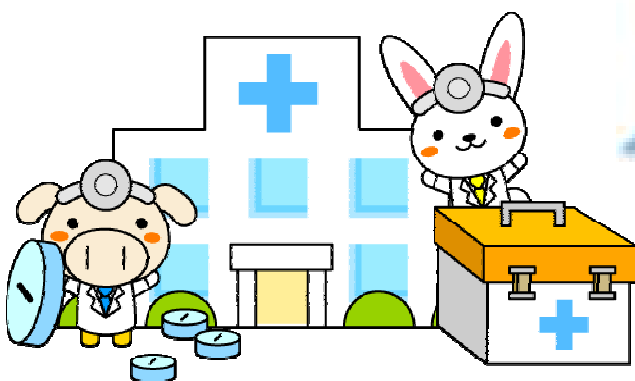
オムツの交換をするときには使い捨てのゴム手袋などを使い、

捨てる時もポリ袋などに必ず密封して入れましょう。もし衣服などに便や嘔吐物が付着してしまった場合は漂白剤(次亜塩素酸ナトリウム)で消毒し、他の洗濯物とは分けて洗濯しましょう。

アルコール消毒は効果がないといわれています。



インフルエンザの流行シーズン  
でもあるので  
きちんと石鹸で手洗いをして  
予防を心がけましょう!



次回は2015年3月発行予定です。